

### 4-3 社会環境調査

里地里山調査での地域資源カードを活用します。

#### (1) 食べられる、薬になる、道具の素材になる樹木や草本、山菜

農家の庭先や里地里山の有用植物を調べます。農家等での有用植物の使いかたは、おとしよりを中心に聞き取ります。

項目	聞き取りの内容	写真
よごみ (よもぎ)	昔はそこらじゅうに生えてたけど、今はあまりないのう。よもぎ、草もち、あわをつんで、ゆでてから手でまるくしてほしたんや。冬まで保存して、少しずつもちをつくるときにまぜこんだんやの。	
柿の木	写真の柿はよう働く柿。この柿の木は他の木に比べ、まだ葉がよく繁っている。柿の木は1軒に1本くらいはある、渋柿、富有柿、甘柿など種類はいろいろある。渋柿はあわせ柿か、つるし柿にする。子どもの頃、温かい田んぼの中にうずめて3日ほどおいてあわせた(渋を抜いた)。どこん入れたか分からなくなって探したこともある。	
お茶の木	生垣がお茶の木だった。かつては畑の端や生垣に、お茶を植えておき、新芽を積んで釜入りして入れた。とてもおいしかった。昔は味噌も醤油も自分達でつくった。	
榊の実	黒い実をつぶしてインク代わりに使った。	
ねむの木の葉	新芽を煮出して、頭を洗うシャンプーとして使う。泡は出ない。リンスをしなくても髪の毛がツヤツヤになる。	

(例) 福井県越前市里地里山保全再生モデル事業調査

## (2) 農作物と食文化

対象地域の農業と食文化を調べます。

過去については自治体の統計や農協等から聞き取ります。

農家の庭先畑にはたくさんの作物があり、おばあさんなどが庭先畑の管理をしていることから、女性たちに集まってもらい、栽培している作物、保存している作物、食品、伝統的な料理などを記録します。家庭料理を持ち寄った試食会なども調査方法として効果的です。



一つひとつの畑と作物を調べると暮らしが見えてくる



畑作業の1年を聞き取り表にまとめる

四季の産—種交打打時精 と 年中行事

春	夏	秋	冬
<p>新米(2018年)</p> <p>新米(2019年)</p> <p>新米(2020年)</p> <p>新米(2021年)</p> <p>新米(2022年)</p> <p>新米(2023年)</p> <p>新米(2024年)</p> <p>新米(2025年)</p> <p>新米(2026年)</p> <p>新米(2027年)</p> <p>新米(2028年)</p> <p>新米(2029年)</p> <p>新米(2030年)</p>	<p>新米(2018年)</p> <p>新米(2019年)</p> <p>新米(2020年)</p> <p>新米(2021年)</p> <p>新米(2022年)</p> <p>新米(2023年)</p> <p>新米(2024年)</p> <p>新米(2025年)</p> <p>新米(2026年)</p> <p>新米(2027年)</p> <p>新米(2028年)</p> <p>新米(2029年)</p> <p>新米(2030年)</p>	<p>新米(2018年)</p> <p>新米(2019年)</p> <p>新米(2020年)</p> <p>新米(2021年)</p> <p>新米(2022年)</p> <p>新米(2023年)</p> <p>新米(2024年)</p> <p>新米(2025年)</p> <p>新米(2026年)</p> <p>新米(2027年)</p> <p>新米(2028年)</p> <p>新米(2029年)</p> <p>新米(2030年)</p>	<p>新米(2018年)</p> <p>新米(2019年)</p> <p>新米(2020年)</p> <p>新米(2021年)</p> <p>新米(2022年)</p> <p>新米(2023年)</p> <p>新米(2024年)</p> <p>新米(2025年)</p> <p>新米(2026年)</p> <p>新米(2027年)</p> <p>新米(2028年)</p> <p>新米(2029年)</p> <p>新米(2030年)</p>

福井県越前地域の食のカレンダー



郷土料理を持ち寄り「小さな食の文化祭」



里山の素材で料理



里山に広がる竹林、管理すれば豊かな食材

### (3) 伝統行事、農事暦等、年間行事カレンダー

地域資源カードをもとに、地域の伝統行事、農事暦などをカレンダー形式に書き込むことで、里地里山保全再生計画や活動と地域との連携を考える情報がまとまります。地域の資料なども収集します。

1月	1～4日	春駒門付(1)、初総会(3)、区祈祷真言(寺)、大神宮祭礼(4)
	7日、8～14日	西之神旗振り(7)、西之神小屋作り(8～14日)
	15日直近日曜日	西之神 とうど小屋 どんど焼
	20日、最終日曜	生活改善反省会(20前後)、網打(各組4組)(最終日曜)
2月	第1日曜、20日頃	網打念仏(第1日曜)、おわさん(子供会)(20日頃)
4月	第1日曜、15日	春道作り(第1日曜)大神宮春例大祭 春祭り演芸大会(15日)
5月	第1週、第3週	イカ念仏(1週)、苗念仏(3週)
6月	27日	善宝寺念仏
7月	第1日曜日	草刈り(第1日曜日)、区民一斉清掃(第2日曜日)
	20日頃の日曜日	伝承館フェスティバル
8月	15～16日	盆踊り(15)、精霊流し(16)
9月	第1日曜日	秋の道作り
10月	15日	秋の例大祭
12月	第2日曜、大晦日	大皆済(第2日曜日)、2年祭り(31日～1月1日)
	*毎月24日	念仏(寺)

(例) 新潟県佐渡市野浦地区

### (4) 古くから伝わる道具

農林業や生活で伝統的に使われてきた道具を調べます。農家等に協力してもらい、納屋などにある道具などを確認します。里地里山保全再生後の地域活性化などに活用できる情報がまとまります。

田植えの枠



田植えは、日が決まっていて、太鼓が鳴ってみんな一斉に始めた。結いで協力して行った。苗の余りは分け合う。そのため各家で、田植えが終わっても余った苗は水苗代に残しておき、村の全員が無事田植えを終えてから苗代をこわした。

(例) 福井県越前地域


醤油づくりの道具



醤油の作り方:大豆と麦にタネ糶をいれてムシロをかけて発酵させる→塩をまぜて桶にいれて仕込む。その中に筒状の籠をいれる。籠の外にもろみ残り、中に液体の醤油が染み出してくる。これを取り出して煮立てる。泡をとって醤油樽へ。

### (5) 名所、旧跡、小祠の分布

地域資源カードから、自然神、山の神、水神、神社仏閣から、神聖な場所、地域の成り立ちやいわれをまとめます。それぞれの意味や形、人々との関わりをまとめることで、地域が大切にしたいものが明らかになります。古道、参道等からは、地域の成り立ちが分かります。

項目	聞き取りの内容	写真
山の神	山の神は、すぐ下に住むおとしよりがいつも手入れをしている。毎朝、水と花を供えている。 この山の神は、集落の中心にあり、かつては、山へ行く際には皆、お参りをしていたが、今は車で通り過ぎることはあるが、おとしより達以外からは忘れられている。	

(例) 熊本県氷川町立神地区

### (6) 地名の由来

地域資源カードをもとに、外部者には分からない地名の意味を調べます。地名の意味から土地の特性や活用方法が理解できるようになります。

地区名	長老から聞いた由来	文献に記録されている由来
たつこ 「龍籠」	龍神様をまつた山	「たつこ」は木の切り株の意。タツ・タチは「龍神」つまり水の神のことで、川を龍に見たててタツのこもっている山の意といわれる。
「穴川」	ダムができる前、穴川一帯は谷津田だった	小松の北部の丘陵の北斜面から風間の丘陵の間に狭まれた谷戸地と、その開けた農耕地一帯をいう。古語「アナイ」は湿った小さい谷をいう。この間を小川が流れていることからこの地名が生まれたものか。
「小野」:	畑に適した土地で、開けた野	小松川の南側の丘陵一帯をいう。「小野谷戸」「小野田」「小野山」がある。小野の意味は地形としては野原の小地域をいい、耕地の適地をいっている。
「雨降」	私雨（その場所だけに雨が降るという意味）	最北部の一帯で町田市に接している。昔この地の奥の山林は大樹が茂り、いつも霧がかかっているような地域であったという。

(例) 神奈川県相模原市城山町

### (7) 住民にとっての宝物

地域資源カードをもとに、地域で愛着を持つものとその由来を調べます。地域の宝と考える物事は、計画づくりの際に尊重します。

項目	地域の宝物	個人の宝物
森林、雑木、竹林	炭焼き、木と竹の活用	民芸品、桐の木彫りづくり
田畑	谷戸田の自然が一杯あること	いろいろな作物を栽培している
茶畑	里山の茶	
農家	森と畑を支えている家	
水	名水が湧く水源	
生物	ハッチョウトンボ、ホタル サンバ、ギフチョウ	
食		みそづくり、そば打ち
その他	伝統行事	先祖代々から伝わる仏像



まゆ玉



うないはじめ

神奈川県相模原市城山町「城山町史」より